

2020年度 「臨地実習教育会議」レポート

本学部で例年行われている「臨地実習教育会議」は、昨年は COVID19 感染の影響によって、開催できませんでした。今年度は、昨年度から新カリキュラムでの実習が開始となっていることやコロナ禍での実習となり例年と異なる実習方法であったため、これらを共有する場とすることを目的として3月4日に開催しました。

COVID19 感染対策のため、従来の開催方法である全体会と分科会の形式を変更して実施しました。実習をお願いしている全施設と共有したい内容は事前に動画にし、分科会を行った領域は、動画を視聴した後、意見交換を行い、実習の振り返りや今後の課題について共有しました。分科会を行わない領域の実習施設については、動画を大学ホームページから閲覧してもらうようにし、質問や意見は、メールにて送付してもらい、後日回答するようにしました。

分科会を行った領域は、動画を視聴した後、意見交換を行い、実習の振り返りや今後の課題について共有しました。なお、分科会を行わない領域の実習施設については、動画を大学ホームページから閲覧してもらうようにし、質問や意見は、メールにて送付してもらい、後日回答するようにしました。

動画の内容は、新カリキュラムの全体像（特に実習体系について）、今年度のコロナ禍での実習実施状況について、2020年3月に文部科学省から示された看護学実習ガイドラインに基づき大学と実習施設との連携・協働体制の構築について、本学での看護学実習における対象者への説明および同意についてでした。

分科会を行った実習領域は、「成人急性期看護学実習・統合実習」、「精神看護学実習・統合実習」、「地域における看護学実習・地域看護学実習・統合実習」でした。それぞれの領域の教員も含めた参加人数は、「成人（急性期）」では12名、「精神」では17名、「地域」では22名でした。「成人（急性期）」は、福島県立医科大学附属病院のみで実習を行っており、看護部及び実習部署からご参加頂きました。精神では本学での参加が難しくなった1施設を ZOOM で接続し、7実習施設にご参加頂きました。地域では、保健福祉事務所、保健所、市町村、訪問看護ステーションからご参加頂きました。参加者からは、臨床実習が少なく学内実習でどのように展開されたのか、また、十分な学習効果が得られたかと心配する声も多く寄せられました。学生の様子、学習内容、実習目標の達成度などを説明して学習効果が得られていることを再確認する機会となりました。また次年度に関しても臨地での実習の制限が必要となる場合は、ZOOM などを用いて遠隔から学内実習に参加協力して下さる旨のお申し出もいただけた施設もありました。

コロナ禍での大変な状況の中、多くの施設の方に参加頂き感謝申し上げます。



遠隔参加者も交えての分科会